

津有区地域協議会質問票の集計結果の分析について

1 調査目的	地域コミュニティの最小単位である町内会から、活動状況や役員構成などの現状についてお聴きし、地域協議会での自主的な審議の方向性とテーマを設定する参考とするため。
2 調査期間	令和7年5月25日～6月15日
3 調査対象	津有地区町内会長、子ども会長
4 調査方式	・複数項目からの選択及び記述 ・32町内会の会長へ質問票を紙ベースで配布
5 回答者数	32町内会(紙回答28町内、Web回答4町内…Web回答率12.5%) 回収率：100%

1 町内会活動について

【目的】町内会活動の活動状況を把握する。

問1 町内会にはどのような組織がありますか(複数回答可)_(n=32)

役員会(協議会、理事会など)	27	84.4%	
老人会	9	28.1%	
子ども会	20	62.5%	
青年会(青壮年会)	5	15.6%	
婦人会(女性部)	3	9.4%	
その他	9	28.1%	
多面的機能支払活動組織			
自主防災組織			
有志による「お楽しみ会」			
長面農地を守る会			
長面環境景観保存会			
地域資源振興会			
ない			
	73	228.1%	

町内会での組織は「役員会」が84.4%と最多であり、次いで「子ども会」が62.5%でした。一方、「青年会」や「婦人会」などは15.6%以下となっています。その他にも独自の組織がある町内会は28.1%あり、農地や暮らしを守る活動が行われています。

地域協議会では、老人会、青年会、婦人会は以前よりも少なくなったが、子ども会がまだ多くあることが嬉しいという意見がありました。

津有区地域協議会質問票の集計結果の分析について

問2 町内会ではどのような地域活動や行事を行っていますか（複数回答可）

(n=32)

年始会	22	68.8%	
納涼会	5	15.6%	
さいの神（どんど焼き）	23	71.9%	
お祭り（春祭り、夏祭り、秋祭り）	27	84.4%	
敬老会	11	34.4%	
除雪（高齢者住宅、私道、歩道）	4	12.5%	
交通安全の立哨	10	31.3%	
美化活動（草刈りなど）	23	71.9%	
回覧板、広報紙の配布	29	90.6%	
レクリエーション（ウォーキング、運動会など）	1	3.1%	
その他	7	21.9%	
有志による花壇整備			
自主防災関係の活動（自主防災訓練等）			
5町内合同敬老会（新保古新田、本新保、茨沢、藤塚、上雲寺）			
農用地等の適正な管理（農道、小路等）			
観桜会			
ない			
計	162	506.3%	

活動では、「回覧板、広報紙の配布」が最多の90.6%、次いで「お祭り（春祭り、夏祭り、秋祭り）」が84.4%です。また、「さいの神（どんど焼き）」などの伝統行事や草刈りなどの「美化活動」も多く実施されています。一方、「レクリエーション」は少なく、3.1%です。

住民同士が集まる機会が少なくなり、コミュニケーションを取る機会が減ってきているように見受けられます。

津有区地域協議会質問票の集計結果の分析について

問3 問2について、過去3年間で中止・縮小した活動はありますか（複数回答可）

(n = 32)

中止・縮小した活動はない	13	40.6%	
年始会	1	3.1%	
納涼会	6	18.8%	
さいの神（どんど焼き）	0	0.0%	
お祭り（春祭り、夏祭り、秋祭り）	7	21.9%	
敬老会	0	0.0%	
除雪（高齢者住宅、私道、歩道）	0	0.0%	
交通安全の立哨	0	0.0%	
防災対策	1	3.1%	
美化活動（草刈りなど）	0	0.0%	
回覧板、広報紙の配布	0	0.0%	
レクリエーション（ウォーキング、運動会など）	1	3.1%	
無回答	6	18.8%	
計	35	109.4%	

32 町内会のうち、半数以上の町内会が何らかの活動を中止・縮小しています。特に「お祭り」（21.9%）や「納涼会」（18.8%）など、企画・運営要素の強い行事が中止または縮小傾向にあります。一方、13 町内会（40.6%）が「中止・縮小した活動はない」と回答しています。

地域協議会では、自分の町内でもコロナ禍を契機に行事等がなくなり、寂しく感じるという意見もありました。

津有区地域協議会質問票の集計結果の分析について

問4 問3について、中止・縮小した理由を教えてください（複数回答可）

(n = 19)

人手不足（高齢化、人材不足）	3	15.8%	
参加者の減少	5	26.3%	
コロナ感染予防	7	36.8%	
費用・予算の問題	1	5.3%	
企画・運営の手間がかかる	6	31.6%	
その他	1	5.3%	
アンケートによる必要性の無さ			
計	23	121.1%	

最も多い理由は「コロナ感染予防」(36.8%)で、次いで「企画・運営の手間がかかる」(31.6%)、「参加者の減少」(26.3%)となっています。また、「人手不足（高齢化、人材不足）」も15.8%あります。

地域協議会では、年始会やさいの神のように長年にわたり受け継がれてきた行事は実施内容や手法が決まっているため、続けやすく、企画・運営に手間のかかる納涼会やレクリエーションは、徐々に減っていくように感じるという意見がありました。

津有区地域協議会質問票の集計結果の分析について

問 5 防災対策としてどのような活動を行っていますか（複数回答可）

(n = 32)

避難訓練	14	43.8%	
防災知識の普及	12	37.5%	
高齢者世帯の見守り	9	28.1%	
防災器具点検	10	31.3%	
資器材等の購入	8	25.0%	
ない	7	21.9%	
その他	4	12.5%	
避難行動要支援同意者および支援を要する人の情報共有（組長・防災役員）			
自主防災訓練			
資材取扱研修			
夜間防犯巡回			
無回答	1	3.1%	
計	65	203.1%	

防災活動では「避難訓練」（43.8%）が最多であり、「高齢者世帯の見守り」、「防災器具点検」なども行われています。一方で、「防災活動をしていない」と答えた町内会（21.9%）や「無回答」（3.1%）もあり、町内会によって取組に差があることが見受けられます。

津有区地域協議会質問票の集計結果の分析について

問6 高齢者のみの世帯の方が、地域の方とコミュニケーションをとることができる機会として、「町内会」での取組や組織にはどのようなものがありますか（複数回答可）

(n=32)

町内会活動、行事	22	68.8%	
老人会	5	15.6%	
サークル活動	2	6.3%	
見守り・見回り	4	12.5%	
ない	6	18.8%	
その他	5	15.6%	
配布物の配布時に声掛けをする			
出前サロン			
家数が少ないので配り物などの時に声掛けする			
高齢者のみの世帯がない			
計	44	137.5%	

「町内会活動、行事」（68.8%）が主な交流の場で、「老人会」（15.6%）や「見守り・見回り」（12.5%）は少数にとどまり、高齢者の孤立が危惧されます。また、「ない」との回答も18.8%あります。「その他」には、声掛けや出前サロンが挙げられています。

地域協議会では、出前サロンについて、「参加した際に全然知らない人と話せてよかった」や「今まで出たことはなかったが、参加したことのある委員の話を聞き、今後出てみたいと思った」というような意見もあり、多くの委員が興味を示しました。

津有区地域協議会質問票の集計結果の分析について

問7 「町内会」で行っている高齢者のみの世帯の生活状況を把握できる取組はどのようなものがありますか（複数回答可）

(n=32)

挨拶・声掛け	21	65.6%	
ごみ出しなどの手伝い	2	6.3%	
民生委員との情報共有	17	53.1%	
把握できない	4	12.5%	
その他	3	9.4%	
畑仕事の手伝い（共助）			
小戸数のため			
高齢者のみの世帯がない			
無回答	1	3.1%	
計	48	150.0%	

生活状況を把握できる取組については「挨拶・声掛け」（65.6%）が最も多く、次いで「民生委員との情報共有」（53.1%）が多く実施されています。しかし、「把握できない」（12.5%）町内会も存在しています。

津有区地域協議会質問票の集計結果の分析について

問 8 町内会活動を行う上でどのような課題がありますか（自由記述）

若い世代の参加、公民館活動への参加（公民館までの通行手段）。
一斉連絡手段に苦慮している（LINE グループの運用は役員間での運用が限度）、小中学校の一斉連絡システムのようなものが町内会で使用できると通常の活動や災害時の連絡網・安否確認として有効と考える。
共同作業（ゴミ積所の清掃、側溝清掃、ゴミ拾いなど）で高齢を理由に参加できないことによる従事者の減少。
役員のなり手がいない。
役員、会員共に欠席者が出る。
高齢化と人口減、若者不足による町内活動の参加者減や老人会、青年会、子供会が存続できなくなり休眠状態となっている。
参加者の減少、町内行事のマンネリ化。
役員のなり手不足。
当地域は自然災害の影響が少ないせいか、防災訓練時における参加率が低く、町内役員、班長が主体の活動となる場合が多い。
個人情報の開示の礎。
参加者は決まった人ばかりで、若い世代の人の参加が無い事。
町内の本来、各家庭の（昼間、夜間等）在宅人数の把握をしたいと思いますが、何分今時ですので、個人情報もあるので、何人家族で住んでいるのか知ることが難しいと考えています。緊急時のためには町内会長として知っておきたいと思っているのですが。
世帯数も少なく、高齢者が多く、参加できるものがない。
我が町内も高齢化して、行事を行う時の協力者が少ない。
町内会の行事が全員に過度な負担とならないと同時に、風通しの良い町内とすることが課題。
出席者の固定化。
世帯の後継者不足→構成員高齢化。
今後、会計を担当する役員がいない（パソコン処理）。
高齢化に伴う、役員交代がスムーズに進まない。中間の年齢の人がいない。
組織を繋ぐための人がいない。会長に言えればいいと思っている人がいる。解決してくれると思っている。

「役員のなり手不足」、「高齢化」、「若者の不参加」が課題に多く挙げられています。また、行事の負担感や参加者の固定化も問題視されているように見受けられます。

地域協議会では、近隣の町内会と合同で活動することや、定例的なものを中心に活動することも考えていく必要があるのではないかという意見がありました。

津有区地域協議会質問票の集計結果の分析について

問 9 問 8 の課題について、解決に向けた取組を実施している場合は、どのような取組か教えてください（自由記述）

組織的な取組はしていないが、集会時などを利用して役員などが声掛けしてコミュニケーションをとるようにしている。
町内一斉連絡手段はないので、文書で至急回覧する他なく、解決に向けた取り組みにはなっていない。
年齢を重ねることは、生理的なものでどうしようもない。なんでも自分でしょうとする意欲が弱いと思います。
以前から農家組合として行なっていた共同作業を今後「非農家の方」にも参加依頼（お願い）を町内として意見を聞き承諾を得た。
参加しやすい期日の設定。
お知らせ版、広報紙等による参加の啓発活動。
行政（市役所）への必要に応じて個人情報の開示を要求。
町内の方々に参加の声掛けをしている。
高齢化しているため、行事を行なう時には、青年会、子供会を主体として行なっている。
行事の簡素化。
町内会役員と農家組合役員を兼務することで役員数を減らした。

課題に対する取組として「声掛け」、「行事の簡素化」、「広報活動」などが挙げられています。一方、組織的な取組が進まない町内会もありますが、町内への一斉連絡手段を工夫することで解決する可能性も考えられます。

地域協議会では、考えや環境などは変化するため、それに合わせて行事のやり方を変えるなど、町内会はその町内会でできることをやればよく、話し合っ取り組んでいるかどうか大切だという意見がありました。

津有区地域協議会質問票の集計結果の分析について

問 10 現在の町内会活動に対する想いをお聞かせください（自由記述）

次の世代が参加できる魅力ある町内会運営を模索中である。ゆるくつながる雰囲気も必要なかもしれない。
役員会・総会、防災訓練、祭り、賽の神、クリーン活動といった現在の活動を地道に継続していく。
2050 年には、現在 61 が→43 になることが予想されます。いかにして、それらを続けられるか、また、役員をやる若者が手をあげない。応分の負担も考えています。
役員を早く辞めたい。
今まで手付かずだったファイル化、電子データ化を進め、町内転入者でもすぐ役員になれるようにしたい。
小規模町内のため、町内活動資金も決して多くなく、やってみたい活動や防災防犯資機材を揃えたいと思っても資金面で決断できない点があり、町内の活発化に向け頭を抱えております。
町内のコミュニケーションを深めるための新たな行事等をアイデアを募集しながら創設していきたい。
①3 年程前に青壮年会を立ち上げたので見守っていききたい ②小学生までは子供会で町内会がつながっているが、中・高校生との接点がなく困っている。
住民の地域に対する共存共栄心が年々うすらいでいることに危機感を感じている。色々な手法を講じてはいるが、住民の反応は「参加」となって表れていないのが現状。
若い年代の人達の町内会離れをどう防ぐか非常に難問で、今のところ良い打開策が見つからない。
今は 70 才位まで勤めているので、なかなか町内の役員になってくれる人がいない。
私が町内会長を始めてから空き家が増えています。このままだと空き家がどんどん増えると思いますが、何をするにも高齢者が増えているので、若い方に声をかけるようにしています。
今後、若い世代がどのように活動するのか、多少の不安あり。
役員はほぼ協力的なのだが、町民の意識が今ひとつ上がらない。

回答には、「町内会を続けていきたい」という前向きな意見と、「先行きへの不安」という意見の両面が見られます。特に、若い世代の町内会離れ、役員の高齢化、資金難といった課題への危機感が多く挙げられています。一方で、若い世代が関わることができる仕組みを作りたいとの意見もあります。

地域協議会では、町内会は皆で協力して自分の地域の暮らしを守るためのものであり、理解し合い、協力していくことが大切だという意見がありました。

津有区地域協議会質問票の集計結果の分析について

2 町内会役員について

【目的】人口減少と高齢化が進む中、どの分野においても「担い手不足」が挙げられているため、町内会における現状を把握する。

問1 役員構成（正副会長、会計、書記、監事など、班長を除いた執行部）は何人いますか（単一回答）

(n = 32)

1 人	4	12.5%	
2 人	1	3.1%	
3 人	3	9.4%	
4 人	5	15.6%	
5 人	4	12.5%	
6 人以上	12	37.5%	
無回答	3	9.4%	
計	32	100.0%	

「6人以上」の役員体制をとる町内会が最も多く（37.5%）見られます。一方で「1人」（12.5%）や「2人」（3.1%）といった少人数の体制もあり、町内会によって運営体制に違いがあることが見受けられます。

津有区地域協議会質問票の集計結果の分析について

問 2 【問 1 について】その内、女性は何人いますか（単一回答）

(n = 32)

0 人	23	71.9%	
1 人	3	9.4%	
2 人	2	6.3%	
3 人	1	3.1%	
4 人	0	0.0%	
5 人	0	0.0%	
6 人以上	0	0.0%	
無回答	3	9.4%	
計	32	100.0%	

役員に占める女性は「0 人」が 71.9%と、男女の偏りが見受けられます。女性が 1～3 人在籍している町内会は全体の 18.8%にとどまり、4 人以上は 0%です。

地域協議会では、女性や若者など、多様な人から役員になってもらえるような仕組みも必要ではないかという意見がありました。

問 3 【問 1 について】その内、働いている人は何人いますか（単一回答）

(n = 32)

0 人	2	6.3%	
1 人	4	12.5%	
2 人	4	12.5%	
3 人	4	12.5%	
4 人	5	15.6%	
5 人	5	15.6%	
6 人以上	4	12.5%	
無回答	4	12.5%	
計	32	100.0%	

役員の中で、働いている人が「4 人以上」と回答した町内会が約 40%あり、一定数の就労者が活動に関与しています。一方で「0 人」(6.3%)や「1 人」、「2 人」(12.5%)という町内会も存在します。

津有区地域協議会質問票の集計結果の分析について

問 4 現在、町内会の役員や活動の担い手不足を感じていますか（単一回答）

（n = 32）

非常に感じている	16	50.0%	
ある程度感じている	12	37.5%	
あまり感じていない	1	3.1%	
まったく感じていない	1	3.1%	
無回答	2	6.3%	
計	32	100.0%	

「非常に感じている」は、50.0%と半数の町内会が回答し、「ある程度感じている」と答えた町内会は 37.5%です。「あまり感じていない」、「まったく感じていない」は計 2 町内会（6.2%）にとどまり、地域全体が担い手不足を課題だと認識していることが読み取れます。

地域協議会では、70 歳まで働いている人もいることから、役員の担い手が見当たらないのではないかという意見がありました。

津有区地域協議会質問票の集計結果の分析について

問5 役員（正副会長、会計、書記、監事など、班長を除いた執行部）はどのように選出していますか（単一回答）

(n = 32)

輪番制	3	9.4%	
話し合い	18	56.3%	
選挙	3	9.4%	
その他	6	18.8%	
現役員のなかで原案を示し、承認を得る			
町内 17 組を 8 つ選出母体とし、各選出母体から 1 名選出。各選出母体の中では役員の仕事に対応可能な世帯で輪番制			
選考委員による話し合い			
推薦を受け、同意した方から引き受けてもらう			
役員会で決め総会に議案として提出			
選考委員会（新旧組長）を設置			
無回答	2	6.3%	
計	32	100.0%	

役員の選出には、「話し合い」が 56.3%と最多で、「輪番制」と「選挙」がそれぞれ 9.4%となっています。また、「その他」回答が 18.8%であり、中でも推薦や選考委員会を設置する方式など、多様な方法で行われていることが見受けられます。

地域協議会では、役員の選出もそうだが、町内会長の選出も大変であるとの意見がありました。

また、自分の町内では、これまで年功序列で町内会長を決めてきたが次の人を見つけるのが難しい場合には、輪番制に変更してはどうかと話し合ったという意見もありました。

津有区地域協議会質問票の集計結果の分析について

問 6 役員を確保するために工夫していることはありますか（複数回答可）

（n = 32）

組織の見直し（業務の分散化）	13	40.6%	
業務のデジタル化（負担減）	3	9.4%	
その他	7	21.9%	
総会や各種会議後、神社の祭礼でも飲み会、慰労会をやめた			
業務の休止、簡素化			
役員改選期年度には町内集会を早めに開催し住民の意識を促す様にしている			
日頃のコミュニケーション			
一年毎に担当を変更、属人的にならないようにする			
定年制の延長			
次に役員となる人材を多面的機能支払交付金の役員に選び町内会役員と行事に出る			
無回答	12	37.5%	
計	35	109.4%	

役員を確保するための工夫として、「組織の見直し（業務の分散化）」が 40.6% と多く、「業務のデジタル化（負担減）」は 9.4% です。「その他」の回答では、「一年毎に担当を変更」、「日頃のコミュニケーション」などの取組も見受けられます。

津有区地域協議会質問票の集計結果の分析について

3 子ども会活動について

【目的】少子化が進む中、「子ども会」の活動状況について確認する。

回答される方について教えてください（単一回答）

(n = 32)

町内会長	25	78.1%	
町内会の子ども会担当	3	9.4%	
子ども会役員代表者（町内会とは別組織）	1	3.1%	
その他	0	0.0%	
無回答	3	9.4%	
計	32	100.0%	

問1 現在、子ども会はありますか（単一回答）

(n = 32)

ある（町内会単位）	15	46.9%	
ある（隣接町内と合同で組織化）	5	15.6%	
ない	9	28.1%	
無回答	3	9.4%	
計	32	100.0%	

回答では「ある」（町内会単位 46.9%＋隣接町内と合同で組織化 15.6%）が約 60%を占めていますが、「ない」と答えた町内会も約 3 割に達しており、地域によって子ども会の設置状況に差があります。

津有区地域協議会質問票の集計結果の分析について

問2 【問1で「ある」と回答した方】町内全体で子ども会へ加入している子どもは何人いますか（自由記述）

(n=20)

1人	2	10.0%	
2人	1	5.0%	
4人	4	20.0%	
5人	2	10.0%	
7人	4	20.0%	
10人	2	10.0%	
11人	1	5.0%	
14人	1	5.0%	
21人	1	5.0%	
27人	1	5.0%	
30人	1	5.0%	
計	20	100.0%	

子ども会に加入している子どもの人数は「4人」及び「7人」が多く、約3分の2の町内が「加入人数7人以下」となっています。一方で20人以上加入している町内も存在し、地域間で子ども会へ加入している子どもの人数に差があることが見受けられます。

津有区地域協議会質問票の集計結果の分析について

問 2-2 【問 1 で「ある」と回答した方】 子ども会では、どのような行事や活動を行っていますか（複数回答可）

(n = 20)

お祭り	5	25.0%	
バーベキュー大会	3	15.0%	
ラジオ体操	11	55.0%	
ハロウィン	1	5.0%	
クリスマス	4	20.0%	
遠足	1	5.0%	
その他	17	85.0%	
お楽しみ会			
さいの神（手伝い含む）			
歓送迎会（卒業生のお別れ会、顔合わせ会）			
町内会活動の美化運動参加			
日帰り旅行			
立哨（小学生対象）			
夏のレクリエーション			
各町内会イベントへの参加			
花火			
計	42	210.0%	

「ラジオ体操」（55.0%）が最も多く、季節ごとのイベント（お祭り 25.0%、クリスマス 20.0%など）も一定の割合で見られます。一方で「その他」の回答も多く（85.0%）、地域で様々な活動が行われていることが見受けられます。

地域協議会では、子供たちも塾や習い事でなかなか皆が一緒に集まることが難しくなっているため、子ども会や町内会の活動も時代に合った内容にしていく必要があるのではないかという意見がありました。

津有区地域協議会質問票の集計結果の分析について

問 2-3 【問 1 で「ある」と回答した方】役員を確保するために工夫していることはありますか（複数回答可）

(n = 20)

組織の見直し（業務の分散化）	5	25.0%	
業務のデジタル化（負担減）	2	10.0%	
その他	5	25.0%	
輪番制で申し送りをしっかりとしている			
習い事等で集まることが困難になってきているため、祭りは灯籠づくりなどの準備作業を廃止して、当日参加するだけにするなど、行事の内容を変えてきている。			
都度話し合いをし、平等な役員決め			
保護者会に一任			
子育て世代の移住			
無回答	8	40.0%	
計	20	100.0%	

「組織の見直し（業務の分散化）」(25.0%) や「業務のデジタル化（負担減）」(10.0%) など時代に合わせた効率化が進められています。一方、「その他」(25.0%) では、運営の負担軽減のため、行事の内容を簡素化するなどの取組も見受けられます。

津有区地域協議会質問票の集計結果の分析について

問3 【問1で「ない」と回答した方】これまでに子ども会は設置されていたか（単一回答）

(n=9)		
以前はあったが、なくなった	7	77.8%
子ども会が存在していたことはない	1	11.1%
回答無し	1	11.1%
計	9	100.0%

「以前はあったが、なくなった」(77.8%)が最多で、過去には子ども会が設置されていた町内が多かったことが見受けられます。

問3-2 【問1で「ない」と回答した方】子ども会がない理由を教えてください（複数回答可）

(n=9)		
子どもが減った、いなくなった	7	77.8%
保護者の負担が大きい	0	0.0%
地域でのニーズがなくなった	0	0.0%
トラブルや不公平感があった	0	0.0%
その他	1	11.1%
回答無し	1	11.1%
計	9	100.0%

「子どもが減った、いなくなった」(77.8%)が最も多く挙げられました。また、「保護者の負担が大きい」や「地域でのニーズがなくなった」、「トラブルや不公平感があった」の選択肢には回答がない点から、子どもの人数の減少が、町内に子ども会がないことの直接的な要因であると考えられます。

津有区地域協議会質問票の集計結果の分析について

問 4 現在の子ども会活動に対する想いをお聞かせください（自由記述）

コロナ禍以前には、書き初め会をしていた。町内のボランティアが指導をしながら一斉に取り組んでいたのも、新鮮味があり好評であった。何とか再開できればと願っている。町内会館を身近に感じてもらえればいい。
なるべく地域と子供たちが接する機会を設けていきたい。
親同士の繋がりができるので無くさないでほしいと思う。
昨年度より子供会への活動補助を増額し、活性化を望んでいる。
子供の数が減ってくる可能性があり、今後の課題が多い。
約 5 年後位には、今の現状では子供がいなくなり、子供会が存続しなくなる。
子供がたくさんいれば何か活動が出来るのですが、今は親御さんに任せているのが現実です。
コロナが落ち着いて少しずつ行事もできるようになってきた。今、この時に行事の見直しをして受けついでいく所は残し、無駄な部分は縮小するなどして、現代の時代に合わせた活動をしていこうと思う。
子供の時の思い出は一生物なので、できる限りは作ってあげたい。そして、この事を次の世代につなげていきたい。
子供たちが仲良くできるようなイベントへの取り組みをしていけたらと思っています。
2 年後には 3 人になる予定。子供会を存続させたい。
子供や子供世帯数が減少していること、親の活動に関する考えややり方の変化、学校でも先生方の働き方改革や、コロナなどの感染症による活動制限など、世の中や大人の事情で、子供たちにとって思い出になる活動が減っている昨今。小さい地域ならではの活動を考え、子供会として楽しむだけでなく、普段からお世話になっている地域の方達とのふれあいも大切にしながら、活動できたらと思っています。ただ、現状子供の人数・世帯数減少により、今年度より隣の町内と合併することになりました。デメリットばかりに目を向けずに合併で協力し合っていきたいと思っていますが、合併した今からしても、先数年で子供の人数と世帯数は更に激減し又、子供会のやり方等を検討せざるを得ません。親である私たちが努力しながら、地域の方などからもお力添えをいただきながら、子供たちがここに生まれて良かったと思えるようにできたらありがたいと思っています。

「子ども会活動の存続を願う声」や「地域と子どものつながりを大切にしたい」といった前向きな意見が多く見られます。一方で「近い将来、子どもがいなくなる」といった意見のほか、近隣町内との合同による活動の必要性、活動の簡素化や時代に合わせた見直しの必要性も挙げられています。